

(11)Publication number: 59-232506 (232506/1984)

(43)Date of publication of application: 27.12.1984

(51)Int.Cl. A46B 5/02

(21)Application number: 58-108374 (71)Applicant: PIGEON:KK

(22)Date of filing: 16.06.1983 (72)Inventor: SURUGA MASAYUKI /  
NAGASAKA AKIRA

1. TITLE OF INVENTION: HANDLE FOR INTERDENTAL BRUSH

2. CLAIM

A handle for interdental brush having an attachment section to which an axial body of the interdental brush may be detachably attached at a distal end of a cylindrical holder forming a thin long hollow room for containing the interdental brush formed by radially transplanting fibers from core body protruding toward the axial direction from the distal end of the axial body wherein the axial center line of the holder and the axial center line of the attachment section intersect at a predetermined angle.

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開  
⑪ 公開特許公報 (A) 昭59—232506

⑫ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 46 B 5/02

識別記号 厅内整理番号  
6671—3B

⑬ 公開 昭和59年(1984)12月27日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 歯間ブラシ用の柄

⑮ 特 願 昭58—108374  
⑯ 出 願 昭58(1983)6月16日  
⑰ 発明者 敦賀正行  
東京都千代田区神田富山町5番  
地1 ピジョン株式会社内

⑱ 発明者 長坂明

東京都千代田区神田富山町5番  
地1 ピジョン株式会社内

⑲ 出願人 ピジョン株式会社  
東京都千代田区神田富山町5番  
地1

⑳ 代理人 弁理士 藤岡徹

明細書

1. 発明の名称

歯間ブラシ用の柄

2. 特許請求の範囲

軸体の先に軸方向に延出する芯体から放射状に繊維を植毛した歯間ブラシを収納するための細長い中空室を形成する筒状の保持部の先端に上記歯間ブラシの軸体を着脱自在に取付け可能な取付部を有し、上記保持部の軸心と取付部の軸心とは一定の角をもつて交わることとした歯間ブラシ用の柄。

3. 発明の詳細な説明

この発明は歯と歯の隙間に挟まつた食物を除去したりあるいは上記隙間を清掃するための歯間ブラシを取りつける柄に関するものである。

従来歯間に食物が挟まつた場合、楊枝あるいは歯間ブラシによつてこれを除去したりしていた。しかしながら楊枝の先端は比較的太いものであり、細かい部分の清掃に不向きな上少し力を入れると先端が丸くなつたりあるいは歯間に挟ま

つて折れてしまい用をなさないときもある。一方歯ブラシは、植毛された根縫の先端が平面的に配列されているために歯ブラシの柄をその軸心まわりに回転させても植毛部の周囲の根縫以外は歯間に入り込みにくいくこと、また根縫が太いので上記周囲の根縫でさえ歯間に入りにくいくこと、さらには根縫が長いのですぐに詰んでしまい食物等を除去するに十分なる力を出せないと、等によつてあまり効果的ではなかつた。

そこで発明者は、上述の事情に鑑み軸体の先に芯体を軸方向に延出し該芯体から放射状に繊維を植毛した歯間ブラシを開発したが通常の直状の柄では使用しにくいく場合もあり上記歯間ブラシの機能を十分に發揮できないこと、また歯間ブラシのブラシ部が當時導出しては非衛生的であること、さらには場合によつて異なる複数のブラシを要すること、等の不都合があつた。本発明は上記歯間ブラシの柄部分について改良を加えて、歯間ブラシの本来の機能を發揮せしめ、さらには歯間ブラシの保管上衛生的か

つ便宜な歯間ブラシ用の柄を提供することをその目的とするものである。

本発明の歯間ブラシ用の柄は、歯間ブラシの使用の際に握る保持部と歯間ブラシの取付のための取付部とから成り、保持部は、軸体の先に芯体を軸方向に延出し該芯体から放射状に纖維を植毛した歯間ブラシを不使用時に収納するための細長い中空室を備えている。上記中空室は軸状の柄の一端から歯間ブラシを収容できるように柄を中空にして形成され、入口端には蓋体が取付け可能になつていて、該中空室は複数の歯間ブラシを直列に収容できる長さに設定しておくとより便利である。

取付部は柄の他端に歯間ブラシの軸体を着脱自在に取付け可能になつていて、取付の形態はねじであつても単なる嵌合によるものであつてもよい。

さらに上記柄は柄の軸心と取付部の軸心すなわち歯間ブラシの軸心とが一定の角をもつて交わるよう形成され、歯間ブラシが使用しやす

に収納できるよう設定されている。

取付部22は保持部21の先端に設けられ、歯間ブラシ1の円筒部13を受入れて保持するための取付穴24を有している。この取付穴24の寸法は既述のごとく歯間ブラシの円筒部13と相対的に定められ、両者がしつかりと保持し合う程度の嵌め合い寸法となつていて、さらに取付部22の軸心は上記保持部の軸心と再度αをなしている。この角度αは保持部21を握ったとき歯間ブラシ1を使いやすい位置にするためで、 $15^{\circ} \sim 30^{\circ}$ の範囲が望ましい。なお該取付部22は保持部21と分離可能に設計してもよい。

保持部後端には蓋体27が取付け可能になつていて、該蓋体27は中空室23の開口26に嵌合される円筒面をもつ栓部28を備えている。

上述の柄をもつ歯間ブラシ使用について述べると、歯間ブラシの使用時には中空室23から複数本のうち一本の歯間ブラシを選択して取り出し、その軸体10の円筒部13を突部14が

いようになつていて、

以下図面に示す実施例について説明する。

図中1は歯間ブラシで、2は該歯間ブラシ用の柄である。

歯間ブラシ1は円筒状の軸体10の先端(右端)から軸方向に延出している芯体11に比較的細く短い纖維12を多段放射状に植毛してなつていて、軸体中央部には環状の突部14があり後述の柄の取付部への嵌合時においてストップの役をなす。さらに上記突部14の後方は上記取付部へ嵌合される円筒部13になつておらず、該円筒部13は上記取付部で保持されるよう嵌め合い寸法に仕上げられている。

一方柄2は、歯間ブラシ1の使用時に手で握るための保持部21とその先端に歯間ブラシを取付けるための取付部とから成っている。

保持部21は細長い筒体で内部は中空室23が形成され、その後端(左端)は歯間ブラシ1の収容時のための開口26となつていて、上記中空室23の長さは複数本の歯間ブラシが直列

に収納できるよう設定されている。取付部22先端に当接するまでしつかりと取付部の取付穴24内に押し込める。そして柄の保持部21を握り歯間ブラシ1の纖維12を歯間に沿うように歯間ブラシ1を回転させながら動かす。次に歯間ブラシの不使用時には上記歯間ブラシ1を取付部22から取りはずし、柄の中空室23内に収納しそして蓋体27を上記中空室の開口26に栓をする。

本発明は以上のようになつてるので次の点で効果が著るしい。

- ① 取付部22を保持部21に對して角度αをもつて設定してあるので、歯間ブラシの使用時に嵌合しやすい。
- ② 柄に中空室23を設けて不使用時の歯間ブラシを収容可能としたので、歯間ブラシは衛生的かつ携帯時の取扱いに便利である。さらには歯間ブラシが複数種用意されていても上記中空室に保管できる。
- ③ 取付部22は歯間ブラシを着脱自在に取付けられるようになつていて、異種の歯間

ブラシを容易に選択して使用できる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の実施例の歯間ブラシ用の柄  
そしてこれに取付けられる歯間ブラシの部分断  
面斜視図である。

1 … 歯間プラン	1 0 … 糊体
1 1 … 芯体	1 2 … 繊維
2 … 柄	2 1 … 保持部
2 2 … 取付部	

特許出願人 ピジョン株式会社

代理人弁理士 岡 微

第一図

